

2010年1月7日

## 医療機器・製薬、中国に重点 (フィリップス/ノバルティス等)

欧米の医療関連企業が中国事業の拡大に動いている。スイス製薬大手ノバルティスは計 12 億 5000 万ドル (約 1100 億円) を投じて研究開発体制を拡充。オランダのフィリップスも地域の医療機関向けに診断機器の開発などを進める。日米欧の先進国での販売が伸び悩むなか、中国では政府が医療体制の整備へ大型投資を計画するなど、市場規模の拡大に期待できる。

ノバルティスは中国で研究開発から新薬生産まで一貫して取り組める体制を築く。上海市の研究開発拠点に 10 億ドルを投じ、研究員数を現在の 6 倍強の約 1000 人増員。バイオ医薬品などの創薬研究を強化する。

独製薬大手メルクも北京に研究開発拠点を設ける。13 年までに 1 億 5000 万ユーロ (約 200 億円) を投じ、がんなどに効くバイオ医薬品研究などを強化。

米国のファイザーは昨年 12 月、武田薬品工業と中国で糖尿病治療薬「アクトス」の販売促進に共同で取り組むと発表した。

独製薬・化学大手バイエルは 10 年中に主力の多発性硬化症治療薬を中国で発売する計画。

医療機器メーカーでは、世界大手のフィリップスが蘇州に画像技術を使った医療診断装置の開発・製造拠点を 12 年をメドに本格稼働させる。コンピューター断層撮影装置 (CT) などを地域の診療機関向けに生産する。

中国では 2 億人以上が基本的な医療保障制度の対象外とされ、中国政府は医療改革のため 11 年までに 8500 億元 (約 12 兆円) を投じる計画。今後は農村部でも医薬品や医療機器の需要が見込まれる。

米調査会社 IMS ヘルスは日米欧の医薬品市場が年間数%の伸びにとどまるのに対して、中国市場は 20%以上のペースで伸びると予想している。

以上

＝日経新聞＝